

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 Tel:075-621-3849 Fax:075-621-1579
E-mail:airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替:01020-5-39321
編集発行所:社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者:平田 義

99号

【報告】

震災から何を学び、どう生きるか！

東日本大震災から6年が経過し、熊本地震から1年が経過しました。今号では、今なお、原発事故により、辛酸をなめつくされる苦しい状況に追い込まれている方々、震災によりさらに弱い立場に立たされていく、被災障がい者の方々の現状から、私たちが何を学び、どう生きるのかを共に考えたいと思います。(平田義)

<3.11メモリアルキャンドルinむかいじま>

東日本大震災で被災されて、向島に避難されて来られた方々を支援する取組みを京都文教大学と地域の方々とで行ってきました。その中から、2013年より、メモリアルキャンドルの催しが行われてきました。今年度は、「震災から6年・避難者の今」というテーマで、福島第一原発事故による避難者の方のお話や写真展、最終日には、震災で亡くなられた方々の慰霊と平和への願いを込めてキャンドルの点灯が行われました。以下に、実行委員の方々の思いと、避難された方の魂の叫びである川柳を掲載します。

*メモリアルキャンドルでの実行委員長の 高木久美子さんからの挨拶文

2万1000人以上が犠牲になった東日本大震災から6年。津波や原発事故で今でも12万人が全国に避難しています。あの恐ろしい地震、津波により大切な人を亡くされた方々の悲しみは計り知れません。その後の福島第一原発事故では、放射能汚染がひどく、助けられなかった命もたくさんあったと聞きます。大人も子ども達も健康被害が増え不安は6年経っても消えません。

5回目の開催となるキャンドルナイトも、今年もたくさんの方々に支えられて実現できました。

皆さんと共に慰霊、被災地の復興、世の中が平和でありますよう祈りたいと思います。

向島地域の皆様の暖かな心に感謝します。

ありがとうございました。



お話会で川柳を披露する高木久美子さん↑



↑JCILの皆さまがつくられた色とりどりキャンドルに
灯りがともりました

*実行委員の方からのメッセージ

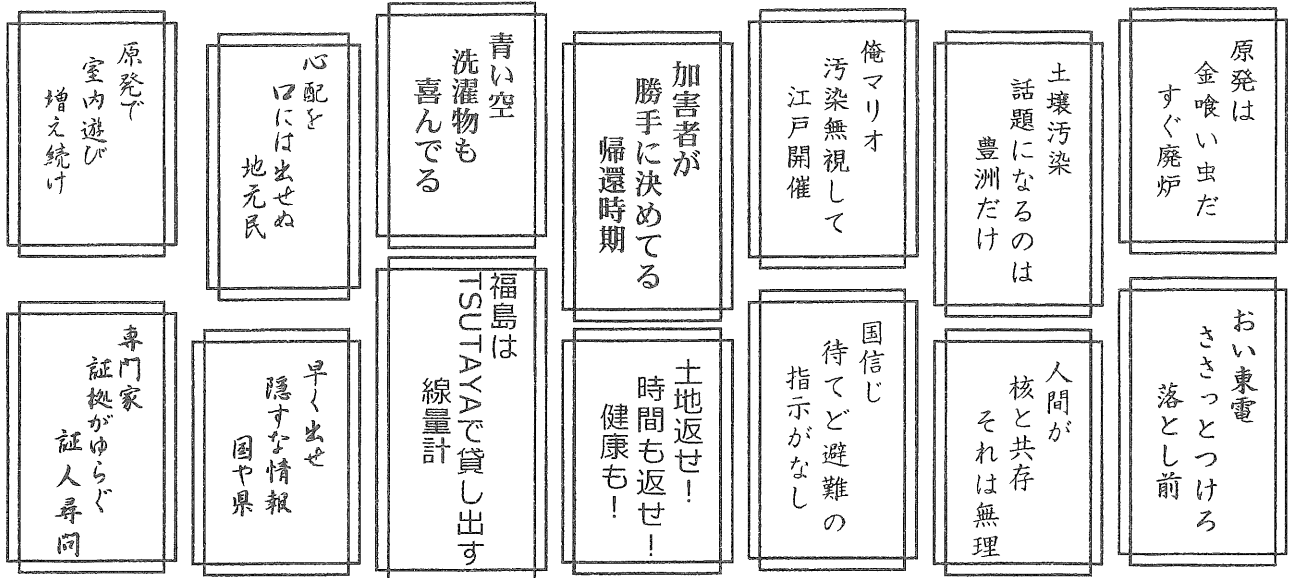
<2街区在住、向島中央公園愛護協力会、
山崎洋一さんより>

震災が起こって、被災地へボランティアに行きたいと思っていたが、年齢のこともあって、行くことができなかった。こっちで何かできないかと考えて、メモリアルキャンドルをやろうとなった。昨年まで、311個の竹灯籠の制作を約3ヶ月かけてやってきた。被災された方々の励みになればと思ってやってきたが、心の傷の癒やしにはまだまだほど遠い状況にあると思う。これからも、震災のことを忘れることなく、やれることを続けていき、支援の輪も広げていきたい。

<京都文教大学小林大祐さんより>

向島の方々と、何かできないかと考えて、避難してきている方と共に、メモリアルキャンドルを行ってきた。6年が経過した今、関西にいと、すでに震災は終わったこととされているように感じることもある。しかし、住むところを失い、今も避難の生活を強いられている方がいる。このことは、リアルに隣に住んでいる人の話だ。避難している方への支援が打ち切れようとしている中で、私たちがその人たちへの思いを寄せていくことが大切だ。今後も支援を続けていきたい。

*避難されている方々の自作川柳



「いま 原発について話そう」講演会に参加して

～人とつながる 自分とつながる～

『原発核事故によって奪われたのは、日本国憲法に保障されている「基本的人権」である』

去る1月、バザールカフェにて、会津放射能情報センターの片岡輝美代表の講演会があった。冒頭、「原発核事故後、見えない放射能と安心安全キャンペーンとの闘いがはじまった」と切り出された。福島第一原発事故から6年、これまで起こったこととして挙げられたことを伝えたい。

「事実が隠される」…事故のレベルを表す国際的な指標を当初「レベル4（スリーマイル原発事故以下）と発表。1カ月後、「レベル7」（チェルノブイリ原発事故と同等）と修正等。「安全基準が変えられる」…食品の安全基準値が事故後突然上げられた等。「被災者を分断、対立、疲労させて、あきらめさせる」…避難するか、避難しないで留まるかのちの選択を迫られる等。

「被害を過小評価するための調査が、研究者などによって行われる」…線量は高いのに根拠のない尤もらしい説明に終始等。「子どもが復興に利用される」…次世代の若い力が必要を謳い文句に廃炉方法を子どもたちに研究させている。「誰も責任を取らない」…国も東電も責任のなすりつけあい。

そして、今、福島で起きていることは何か？

小児甲状腺がんの患者が増え続けている（184人／約38万人が発症）。事故前は1～2人／100万人が発症する稀な病気だった。それでも国は、因果関係はないと言い続けている。しかも「検査を受けない選択もあ

る」と県小児科医会が発言した。真実を知る権利が国民にあるのに・・・

自主避難者の住宅支援を打ち切る国と福島県。避難者の生活実態を無視し、望まない帰郷を迫っている（多くの自治体で打ち切りを決定している中、京都府・京都市は有償での継続を決定）。

廃炉への道は難航し、1日400トンの汚染水が出されている。廃炉方法は誰もまだわからない、つまり、まだ実験段階にすぎないということに驚いた。それでも、「原発事故は起きない」から「原発事故は起きても大丈夫」へ向かわされている。福島県は存続し復興しているの見せかけようとしている。その裏には国内の原発を再稼働させ、海外輸出を推進させること、華やかな東京「復興」五輪と共に、原発事故を終わらせようというシナリオが見え見えである。

では、私たちがすべきことは一体何か？

「事実を知り、真実を見抜き、本当に重要なことを見分ける力を身に着けること」と片岡氏は語られた。「安全かどうかは私が決める」のだ。そのため、数値の収集と情報の発信に取り組んでおられる。そして、「あなたはひとりではない」と思いに寄り添うことが大切である。大人も子どもも苦しんでいるのだ。悲しみや苦しみを強いられているのだ。向島にも避難者がおられ、親子で闘い続けている姿を間近に見て感じている。

人間としての人権を踏みにじっているのは果たして誰か問い続けたい。（佐藤雅裕）

2・11 平和について考える日

地域のつながりを求めて～被災地熊本からの報告～

4月16日日本震の3週間後、5月9日に震災支援としてたんぼぼハウスに行き、104日間活動してきました。深夜に起こった大地震。ガラスが玄関に飛び散り、歪んだドアから怪我をしながらも外に出た鈴川さん。「家や大切にしていたものを震災で失ったが、震災がなかったら、これだけの多くの人々との出逢いはなかっただろう」と語ってくださいました。震災前あまり話さなかった父とも震災後はだんだん話すことも増えたとのこと。

車椅子生活をされている鈴川さんはご自身が生活する仮設住宅について、自ら行政や業者に声をあげておられました。

それは、当事者だけではなく、障がいのある方と共に暮らすわたしたちも実践していかなくてはならないことだと強く感じました。

「にしはらたんぼぼハウス」は、障がいのある方が集える場をつくるために、行政や、当事者、親の会、村民（応援団）が一体となつてつくりあげた西原村唯一の作業所です。震災後すぐに施設長上村さんや、職員の方々は、被災者でありながらも、率先して炊き出しや、支援物資の受け入れを行われました。道路が遮断され、車での移動が困難になる中、仲間たち・地域に暮らす助けの必要な方がどこに住んでいるのかをしっかりと把握していたこと



「震災を通して障がいのある方の地域生活を考える」

このセミナーの感想をひと言で表現するなら、私は自信をもって、次の文章を引用します。

「社会問題解決の道はいつも、問題の渦中にある当事者が指し示しているものであると知るべきです。」『釜ヶ崎と福音(本田哲朗著)』

セミナーの講師である東俊裕氏は熊本学園大学の教授で、弁護士でもあり、内閣府の障がい者制度改革推進会議の室長も務められました。2016年4月に発生した熊本地震後は、被災地障害者センターくまもとを立ち上げ、事務局長として奔走されています。

東氏は東日本大震災の経験から、「インクルーシブな避難所」の必要性を訴え、震災直後は熊本学園大学の開放と障がいのある方の避難にも尽力されました。何の巡り合わせか、同じく2016年4月から施行した障害者差別解消法。「障がいの有無にかかわらず、その人の権利が大切にされる社会」の実現に向けて、震災時だからこそ、揺るぎない信念で突き進んでおられるような印象をもちました。

「どんなに困難な状況でも、どうすれば実現できるか知恵をひねり出すこと」の重要さを強調される中、震災時に障がいのある方の権利がないがしろにされる現実に、怒りと悔しさを滲ませておられました。たとえば、車いすユーザーが住むことができないと分かっているながら整備される仮設住宅。何度も何度も

で、いち早く安否確認をとることができたことを教えてくださいました。

普段は特産品づくりに励まれている作業所ですが、金曜日はラーメンデー・土曜日は子ども食堂と地域の方も食べに来られる場を開かれ、温かいご飯を食べるということをとっても大切にされています。避難所での炊き出しも、温かいご飯を食べて元気になってもらいたいという思いからでした。

阪神淡路大震災、新潟中越地震や東日本大震災、日本各地で起きた大きな震災、そして世界ではネパールでの震災など…普段どれだけ思い出すことがあるだろうか、寄り添うことができているだろうか。過去に学んだことを、熊本でどれだけ活かせるのだろうか。車中泊をしていた方の情報は見えづらいついた課題、避難所や仮設住宅の良かった点や変えていけないといけない点など、未来に有効に伝えるために、その時だけでなく、声をあげ続けること。今回の平和集会で強く感じ、学びました。被災地で出逢った人たちのことを地元に戻り伝えられたこと、人と人とが交わりあう場をつくることが、新たな復興へとつながることを願い、これからも通いつづけていきたいです。(馬嶋亮太)

2/8交流セミナー参加しても改善を訴えて、ようやく「当たり前の暮らし」にやっと少し近づく。「東日本大震災から何も変わっていない」「余震の数よりも、頭にくることの方が多かった」と表現されていました。

同時に東氏は聴衆に向けて、ヒントも示してくださいました。「震災時に問題が起こるのではなく、普段の問題が震災時に現れる」。いつ、どのように起こるか分からない状況で、物理的な備えや、避難の手順を確認することはもちろん必要でしょう。その根底には、普段からいかに障がいのある方と向き合うか、基本中の基本が改めて問われています。まさに、問題の渦中にあった(ある)東氏だからこそ、指し示すことのできるメッセージではないでしょうか。

再び『釜ヶ崎と福音』から引用します。

「単純で素朴な思いやりくらいでは、ほんとうのことは見えないはず。 (中略) 教えてくださいって学ぶ姿勢を持つことです」。

何に困っているのか、どうすればよいか、当事者に教えてもらう謙虚な姿勢と汲み取る努力。前例や常識にとらわれ、「できない」理由で思考停止しないこと。個別に、柔軟に、一緒に考え、一歩を踏み出す。ありきたりですが、それが普段からできる備えだと思えます。

(出口剛史)

運転手募集

内容 ■ 愛隣デイサービスセンター・重症心身障がい者通所「シサム」での送迎
 資格 ■ 運転免許
 時間 ■ 8:30-18:00の間 1日3時間程度 週2日より時間・曜日相談に応じます
 時給 ■ 850円~1000円
 休日 ■ 木曜・日曜・夏期・年末年始・GW
 待遇 ■ 交通費実費支給(上限20,000円)、自転車・バイク通勤可
 ※ 障がい児・者ホームヘルプ事業「ゆうりん」のヘルパーも募集しております!

ご支援ありがとうございました

今年度も多くの皆様に支えられて活動を続けていくことができました。

今後ともよろしくお願い致します。

感謝を込めてお名前を載せさせていただきます。

愛隣館研修センターを

支えて下さった方々

《月定会員》市川潤子,伊吹恒二・寛子,浦由佳里,岡田友香,奥間早登子,奥野美奈子,大谷優子,柿本真介,神戸萌子,金山秋義,河原崎美恵子,君村千代子,木村美由紀,木村耕,北園由希子,菊地義則,坂田明子,櫻恵子,佐々木智子,菅野晴治朗・千景,田中晁・千栄,刀根史恵,中川環,中島雅子,中村かおり,菱田万里子,福田尚子,前川有紀,松野正信・清美,宮田詩音,村川知子,森 雄子,"安野喜仁,優美",山崎希充子,藪内みのり,安那芙美子

《指定献金(夏期特別、クリスマス、年会費)》

郵便振替(個人): 赤阪仁②,荒木啓子,秋山幸美,池添素②,李国本修慈,梅村貞造,上野翔太郎,賀川一枝,加治木政子②,(匿名),神谷友之・恭子,川西大祐,川中大輔,川田よしみ,上内鏡子,片岡哲司,喜多明子②,北野井一恵・智恵子②,木村拓貴,黒

田絢②,小久保正,後藤一志②,坂本紘輝②,齋藤カツ工,篠木幸二郎②,四方哲②,清水元介②,近藤孝子,菅令子②,杉原輝明,杉本基晴・ミサ・タタキ,瀬戸隆博,高橋秀幸②,武澤信夫,竹内富久恵,高木恵子,刀根史恵②,富増献児,銅銀正美,中西静子②,中西仁美②,中垣陽子,長尾文雄,丹羽克吉②,二宮英喜,野島正光・共子②,服部忠,樋高知子,東谷誠,富士定夫②,古市貴之,藤田早紀②,本田桃子,朴実・清子②,黛正,増田みち子,増田征治,宮本真希子②,村田英彰②,村岸富美枝,森田和子②,藪中利光・翔太,山内恵美,山口政紀

その他寄附金(個人): 足立こずえ,荒木健,氏家直子,榎本てる子,織田雪江,柿本真介,北野光晴叔母・友人,岸野新吾,小中・福田・宮坂,篠木幸二郎,高木春美②,寺本喜有,中井二美⑥,橋本求,畠田知佳,平井啓之,溝口修造・智之②,安野喜仁・優美②

郵便振替(団体): 軽井沢追分教会,希望ヶ丘教会,京都丸太町

教会,京都YWCA,啓明学院,甲子園二葉幼稚園,神戸教会,夙川東教会,丹波新生教会,田中工務店,所沢教会代表滝口宣,同志社女子高等学校,同志社中学校宗教部,同志社中学・高校代表木村良己,新島学園中学校・高等学校,西小倉めぐみ教会,原宿教会,光の子保育園PTA,枚方くずは教会,ぶどうの木保育園,みどり野保育園 中田一夫,翠ヶ丘教会,友愛幼児園,洛陽教会

その他寄附金(団体): 伊藤珠算教室,NAの会,新婦人の会,新婦人の会(コスモス班),社協二ノ丸学区,住みよい向島をつくる会,世光保育園,空の鳥会,よろず屋,二ノ丸民生児童委員協議会, Pink cherubic,民商ニュータウン支部

(2,188,000円 209口)

2017年3月31日現在敬称略

尚、記入に際しましては万全を期しておりますが万が一記載漏れがありましたらご一報ください。

2016年12月、2017年1-3月行事報告

- 12/10 デイケア・シサムクリスマス会
- 12/23 『愛隣』クリスマス会
- 12/28 デイサービス忘年会
- 1/17 2.11事前合同学習会
- 1/23 愛隣館医療的ケア学習会(経鼻経管栄養)
- 2/12.16.26 喀痰吸引等第3号研修(基礎研修)
- 2/11 2.11平和集会
- 2/14-17 アジア国際夏期学校 濟州島セミナー

★編集後記★
 ▼みなさまからのご意見ご感想お待ちしております(さ)
 ▼「共謀罪」が国会に提出された▽国民の思想信条の自由を奪い、基本的人権を蔑ろにする稀代の悪法だ!▽政府は「テロ対策のため」に必要だと詭弁を繰り返す▽政府の方針に異を唱えることが犯罪と見なされるのだ▽まさに戦前の「治安維持法」の復活だ▽特定秘密保護法の、安保関連法、そして仕上げが共謀罪だ▽戦争への道は決して許さない(ひ)